



終戦後アメリカ軍に接収される「桜花」



桜花の碑(野里町)

かのや Kanoyaの 取扱説明書

鹿屋のギモンにお答えする



戦後80年シリーズ② 特攻とは? 「桜花」とは?

今年はいよいよ戦後80年の節目を迎えます。本市と戦争の深い関わりがあったことを示す5つの特徴を全4回のシリーズでお伝えします。

特攻戦死者が最多…鹿屋・串良基地から1,271名が戦死

太平洋戦争開戦から3年を迎えた昭和19年、日本軍にとって戦況は劣勢と言わざるを得ない状況になっていました。そんな中、6月にマリアナ沖海戦でさらに壊滅的な敗北を喫し、マリアナ諸島を奪われたことで日本本土がB-29の攻撃圏内となっていました。ここで、日本軍は通常の攻撃では立ち行かないと判断し、巻き返しを図るため航空機による体当たり攻撃、いわゆる特別攻撃隊を編成し、以降の戦いでは主作戦となっていくます。

特攻作戦は昭和19年10月から始まり、終戦を迎える昭和20年8月まで

続きました。特別攻撃隊は主に10・20代の若者で構成されており、九州各地の基地から出撃していましたが、最も多かったのが鹿屋基地、串良基地を有していたこの鹿屋市で、1,271名の若く尊い命が南方で失われました。

史上最悪の特攻兵器「桜花」

…唯一の出撃地となった鹿屋基地

航空特攻の中でも最も悲惨と言われた特攻兵器「桜花」が唯一出撃した鹿屋基地。約1トンの爆弾が搭載された桜花は単独で飛ぶことができず、一式陸上攻撃機に吊り下げられた状態で運ばれ、敵艦に近づいたときに切り離されます。ロケットエンジンが作動するのは27秒間のみであり、切り離されると死が確実な兵器であることから人間爆弾と呼ばれ、鹿屋基地からは桜花隊として55名が出撃し散華しました。



特攻戦死者数から見る 鹿屋市の重要度

特攻作戦が始まってからは九州各地が特攻基地となっていました。鹿屋市内には10km圏内に3つの基地があり、そのうち2つが特攻基地として使用されており、南九州の拠点としての役割を担っていました。特攻作戦の最重要地だったことが伺えます。

基地名	戦死者数
鹿屋	908人
串良	363人
知覧	439人
国分	427人
赤江(宮崎市)	385人

8 9 3 - 8 5 0 1

POST CARD

鹿屋市共栄町20-1
鹿屋市役所 政策推進課
広報KANOA「読者のひろば」係 行

85円切手をお貼りください

お名前/ふりがな

電話番号

ペンネーム ※未記入の場合、イニシャルで掲載します

年齢/性別

ご住所 □□□-□□□□

プレゼント

クイズの答え

要・不要

☐ ☐

皆さんからのメッセージを募集

広報誌への感想のほか、市へのご意見など多くの情報を、郵送又は二次元コードのご意見フォームからお寄せください。

ご意見の中から抽選で特産品等をプレゼントします。たくさんのご応募お待ちしております!

※掲載時に原稿の一部を手直します場合もあります。



▲ご意見フォーム